

令和 8 年第 2 回加須市議会定例会

令和 8 年 6 月 9 日招集

所 信 表 明

本日、ここに令和8年第2回加須市議会定例会を招集申し上げましたところ、議員各位におかれましては、御健勝にて御参会を賜り、誠にありがとうございます。

議長のお許しをいただきましたので、今回御審議をいただきます諸議案の説明に先立ちまして、市政運営に当たっての所信を申し述べます。

私は、市民の皆様から多大なる御支持と温かい御支援を賜りまして、市政運営を担わせていただくこととなりました。

大変光栄に存じますとともに、責任の重さと寄せられた期待の大きさに身の引き締まる思いでございます。

私にとって、市政運営は初めてのことでございますが、これまでの民間企業や県議会議員としての経験を活かし、これから、市民の皆様の幸せのため、加須市の発展のため、全力で取り組んでまいります。議員の皆様並びに市民の皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

本市を取り巻く環境は、少子化の進行に伴う人口減少、高齢化の進展、自然災害の激甚化に伴う災害対策に対する意識の高まり、そして、近年は世界情勢等を背景としたエネルギー価格や物価の高騰が、市民生活にも大きな影響を及ぼし続けているなど、日々変化しております。

本市は、首都圏50km圏という都心に近く暮らしやすい環境、平坦な地形による災害リスクの低さ、さらに東北自動車道のインターチェンジを有し、圏央道の沿線に位置しているなどの地域特性があります。

この地域特性を最大限に活かし、直面する社会課題を克服しながら、持続可能で活力ある地域社会の形成が可能な立地です。

こうした社会経済情勢等の中、私の市政運営の基本的な考え方は、責任ある明るい加須市の未来のために、将来の世代に課題を先送りすることなく、すべての世代が納得できる持続可能な未来を築いていくことです。

その際、すべてを1から作り直すものではありません。令和8年3月に策定された「第2次加須市総合振興計画改訂版」を市政運営の土台とし、これまでの取組と成果をしっかりと受け継ぎながら、新たな課題や市民ニーズに応じて政策を発展させてまいります。

以下、8本の柱に沿って、私が進める政策を申し上げます。

まずもって私は「声を聴き、動かす市政にします」。

1 本目の市政の進め方の柱になります。

これまでも 1 番に心がけてきたことですが、私は、これからも市民の皆様の声に耳を傾けながら市政を進めてまいります。全世代の市民の声を丁寧に聴く仕組みと、その声を受け止める市役所の体制を強化してまいります。

そのために、広聴の推進として、地域別での対面による市民との対話やインターネットを活用したオンラインでの対話を実施します。

また、効果的で効率的な自治体運営として、民間企業、大学など外部の知見も積極的に活用し、市役所の課題解決力の向上を図るとともに、企業誘致等による税収増など必要な施策を持続的に実行するための財政基盤の強化を図ってまいります。

また、市民に身近なコミュニティセンターについては、地域における様々な世代の交流の場として更なる活用を検討してまいります。

さらに、市役所においても DX の一層の推進により、行政手続の利便性と窓口サービスの向上を図ってまいります。

そして、文化・芸術・スポーツの分野などの市民の集まりを、地域を支える大切な力として育て、多様な世代が地域で活躍できる取組を応援します。

市政を担わせていただくにあたり、多くの市民の皆様の声をお聴きしてまいりました。その中で、多くの市民が望んでいることは、「加須駅周辺の再生」です。

2 本目の柱として「まちの表情と、地域の力を取り戻します」。

加須駅ビルから、商業施設が撤退し、1 年が経ちます。駅前にはまちの顔であり、本市の第一印象を形づくる重要な空間です。私は、この柱を重点政策として位置づけ、その政策の実現を目指してまいります。

そのために、駅ビルの再生として、引き続き、東武鉄道株式会社と粘り強く継続的な協議を重ねていくとともに、様々な市民の皆様のお意見なども取り入れながら、加須駅北口の中心市街地の賑わいの創出について検討を進めてまいります。

同時に、農村集落をはじめとする地域の営みは、加須らしさそのものを支える基盤です。駅前と地域をネットワークで結び、その双方に元気を取り戻すことが、まち全体の活力につながると考えております。その活性化策の一つとして、空き家対策については、空き家の利活用を図るための取組を進めてまいります。

さらに、地域防災力の充実、防犯体制の強化を図るとともに、かぞ元気プラザについては、活用に向けた県の取組を確認してまいります。

そして、まちづくりの最大のパートナーである自治協力団体については、自らが考えた課題解決や地域活性化に向けた取組を行う自治協力団体を支援し将来的には

横展開を目指すなど、地域の力をより強固なものにしてまいります。

地域ごとの声も丁寧に拾い上げてまいりました。一つ一つ着実に進めることで3本目の柱として「地域政策、市民のオーナーシップを復活させます」。

本市は、加須地域、騎西地域、北川辺地域、大利根地域と、それぞれ地域特性があり、異なる課題を持っています。地域のことは地域の市民が、その課題を自分のこととして捉え、主体的に取り組むことで、市民、地域、行政が協働するまちづくりを進めてまいります。

そのために、加須地域では、これまでに申し上げた、加須駅周辺の再生、駅南口開発、農村集落の再興、空き家対策、南北道路の整備などを着実に進めてまいります。

騎西地域では、まちなかの商店等への支援を継続するとともに、企業誘致を推進するため、関係機関等との連携をこれまで以上に図ってまいります。また、農村集落の再興、県道久喜騎西線の騎西一丁目地内の歩道整備や榎戸交差点整備などに取り組んでまいります。

北川辺地域では、貴重な地域資源である渡良瀬遊水地の活用の推進や指定管理者と連携し、道の駅かぞわたらせの充実を図ってまいります。また、埼玉大橋の老朽化、周辺の渋滞改善のため、引き続き、利根川新橋の早期建設に向けた関係機関への要望活動を実施するとともに、ひとたび河川が氾濫すれば、浸水継続時間が長期に及ぶという特殊性に鑑み、水害時の避難対策について、改めて、防災対策の改善を図り、逃げ遅れによる孤立化を防ぎます。さらに企業誘致について候補地の調査・検討を進めてまいります。

大利根地域では、指定管理者と連携し、童謡のふる里おおとね農業創生センターの充実を図るとともに、子育て支援センターぴっぴについて、利用者の利便性や安全性、地域における子育て支援機能の確保の観点から、その在り方の検討を進めてまいります。また、企業誘致についての推進や、北下新井中央交差点の信号渋滞改善、そして埼玉県とともに主要地方道羽生・栗橋線の整備を進めてまいります。

進めなければならない政策はまだあります。

4本目の柱として「働き、挑戦し、暮らしを立てていける加須にします」。

暮らしの安心は、経済の安定から生まれます。雇用を生み、所得を増やし、その成果を市民サービスに還元する、この循環をつくるのが市政の重要な役割です。

そのために、新たな産業用地を確保し、積極的に企業誘致を推進するとともに、

創業や経営革新などへの支援を継続し、市内で賃上げに取り組む企業への支援についても検討してまいります。

また、農業の活性化として、農業経営の安定化・効率化を図るため、農地の利用集積や生産基盤の整備、農地の有効活用を促進するとともに、市内の農業振興や農地保全を支える主要な農業経営体として、株式会社かぞ農業公社の機能の充実に向けた支援の検討や、道の駅の指定管理者と連携し、直売施設の充実に努めてまいります。

さらに、加須駅南口では、新たなまちづくりを着実に進めてまいります。

5 本目の柱として「暮らしの不安を残しません」。

市民の皆様が、年齢や立場にかかわらず、介護、医療、子育て、障害など、この先も加須で安心して暮らし続けられるまちをつくることは、市政の基本となる責務であります。

そのために、高齢者福祉の充実として、介護サービスの提供体制の充実だけでなく、市民の安心感を醸成するため、高齢者相談センターを中心とした相談体制を充実させます。

障がい者福祉の充実として、誰もがお互いを尊重し合い、障害のある方が、自らが望む住み慣れた地域で充実した日常生活が送れるよう、発達障害のある方などに対して、相談先を分かりやすく整理したうえで、日常生活・教育・就労・医療の相談など、切れ目なく支援できる体制を整え、障害福祉サービスの一層の充実を図ってまいります。

また、人手不足などにより、大きな負担がかかっている介護、保育、医療の現場の人材確保や働く環境の整備への支援に取り組むなど、支える側への支援にも努めてまいります。

6 本目の柱として「当たり前を、きちんと守ります」。

道路、防災対策などの都市基盤は、普段は意識されにくい一方で、市民生活を支える上では不可欠なものであります。こうした当たり前を、きちんと守る市政を進めてまいります。

市長に就任し、改めて認識いたしましたのは、上下水道・ごみ処理施設・橋梁といったインフラが、難しい運用を求められるタイミングに差し掛かっているということです。

市民生活を守るため、これらの施設の持続可能な運用をする必要があります。

そのために、上下水道につきましては、将来にわたり安全な水道水の安定供給や、生活排水の適正な処理を継続できるよう、計画的な施設の維持・更新を着実に進めてまいります。

ごみ処理施設の再編について丁寧に意見聴取を行うとともに、計画的に維持管理・更新等を進め、未来をつくる投資もいとわず進めてまいります。

また、道路ネットワークの構築・道路環境等の向上として、南北幹線道路等の整備促進について、引き続き、関係機関への要望活動を実施することや道路、公園に係る自治協力団体からの要望について、優先性を考慮して整備を進めるとともに、損傷、危険箇所の情報提供など、市民の皆様の協力を頂きながら、適切な維持管理等に努めてまいります。

さらに、防災対策の強化について、水害や震災等の災害対策として、引き続き、実態に即した訓練を実施するなど、市民を巻き込んだ防災・減災対策を進め、いざというときに命と暮らしを守れる体制を整えるとともに、防災機能を有する公園の整備についても検討を進めてまいります。

7 本目の柱として「日本一自由に動ける公共交通の充実した田園都市かぞ」をつくりまします。どれも重要な政策なのですが、こちらを子育て、駅前と並ぶ重点政策として位置づけます。

今任期、皆様とこのビジョンを共有し、きっかけと枠組みをつくる4年間とします。

例えば、北川辺地域の中学生が大人に頼らずに、キサイフーズはなさきふれあいパーク（加須はなさき公園）のプールに行けるように。免許返納後のシニアが生活に困らない、羨むような日本一の自由に動ける田園都市を全精力を上げ、作り上げてまいります。

移動できることは、暮らしを続けていくための基本です。行きたいところへ行ける自由は、市民生活の質に直結することから、高齢者の免許返納後の生活はもとより、こどもや若者も含め移動手段の確保に取り組んでまいります。

そのために、地域の足を守る地域公共交通の充実として、当面コミュニティバスや路線バスを維持しながら、そのうちのデマンド型乗合タクシーについては、利用上の制約を見直すとともに、ライドシェア導入を視野に入れ、より使いやすい地域公共交通へと再構築してまいります。

また、見通しが悪く、危険な交差点及び右折待ち等による交通渋滞を頻繁に起こす交差点などは、隅切りや右折帯の整備など、道路環境の改善に取り組み、市民生活の利便性の向上や安全安心を確保します。

さらに、移住者向けの交通の支援として、通勤に係る移動負担の軽減を図ってまいります。

8 本目の柱として「日本一子育てしやすい田園都市かぞ」をつくります。最後にして、こちらも重点政策です。

子育ては本来、喜びの多い時間ですが、経済的な不安や育児と仕事の両立、孤立感など、子育て世帯がさまざまな負担を抱えることもあります。こうした不安や負担の軽減に向け、相談支援の充実や関係機関との連携強化を図り、地域全体でこどもと子育て世帯を支える環境づくりを進めてまいります。

そのために、仕事と子育ての両立の支援として、現在本市では、0歳から2歳児の保育料は国の基準より低く設定するなど、軽減措置を実施していますが、これを拡充し、0歳から2歳児の保育料無償化の実現に向け具体的に取り組むとともに、引き続き、保育所の待機児童ゼロを継続してまいります。

また、市内企業における育児休暇を取得しやすい職場づくりの促進や学生向けの通学支援の実施について検討してまいります。

また、遊び、相談、支援を1か所で受けられる屋内型のこども拠点づくりについて、具体的な計画については、地域ニーズや財源確保の課題を踏まえながら慎重かつ大胆に進めてまいります。

さらに、教育については、こどもにとって何が最善かを出発点に据え、将来を見据えた持続可能な魅力ある学校づくりを目的とした学校再編の取組を進めるとともに、本市の特色である農業や地域資源を生かし、「加須宇宙米プロジェクト」を契機とした、宇宙・農業・地域をつなぐSTEAM（スティーム）教育を推進してまいります。これにより、こどもたちが学ぶ意味を実感し、将来への夢や挑戦する力を育む教育を教育委員会とともに目指してまいります。

今申し上げたように、子育て世代とこどもたちを応援するとともに、そのこどもたちが本市に住むことは、そのこどもたちを孫に持つシニア世代に生活の潤いをもたらすこととなります。まちの力になります。子育て支援医療費の18歳以下無償化、乳幼児健康診査の充実などに取り組む本市は、これまでも子育てしやすい環境にありました。

しかしながら、市民の皆様に加須市は子育てしやすいイメージがあったでしょうか。これまで築いてきた子育て支援の基盤を大切にしながら、私はそれをさらに一歩進め、子育て世代に選ばれ、安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

今回の取り組みで誰もが、加須市は子育てしやすいと、口々に言い合えるように

します。子育てしやすい加須市なのだから、もしまちで迷う子どもたちがいたら、一人一人の市民が「大丈夫かい」と声をかけてあげられるまちになるような、そのような意識になるような、そのきっかけとしての思い切った市民全体に対するメッセージを伝えるための、保育料無償化であり、屋内型子育て支援施設、農×宇宙のSTEAM（スティーム）教育とします。

「日本一自由に動ける公共交通の充実した田園都市」であり、「日本一子育てしやすい田園都市かぞ」。こちら皆様と一緒に実現できるならば、いかがですか。皆様のお子さんやお孫さんに帰ってきなよ、子育てしやすいんだから、自由に動ける公共交通の充実したまちなんだから帰ってきなよと自信をもって言えるまちになるのではないのでしょうか。これを今後の本市を作り上げる上での土台となる4年間としたいと思います。是非一緒に目指しましょう。

以上、私の市政運営に当たっての基本的な考え方及び政策を申し上げました。

私は、お年寄りから子どもたちまで、全世代の皆様の声に耳を傾け、対話を重ねながら政策の実現に努める、「全世代型の市政」を基本姿勢として、様々な行政課題に誠心誠意、全力で取り組んでまいります。

しかし、よりよいまちづくりは、私一人で成し遂げられるものではありません。まずは、市役所職員の皆さんのお力をお借りしながら、市民の皆様、そして二元代表制の一翼を担う市議会議員の皆様と共に知恵を出し合い、「子ども孫も安心の加須」を創り上げてまいります。

結びに、議員各位をはじめ、市民の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます、私の所信表明といたします。